

中学校区におけるめざす子ども像 ・正義のひと 善悪の判断ができる ・行動のひと 自ら進んで動ける ・勇気のひと チャレンジできる ・連帯のひと 他者の意見を聴き、他者と協働できる

堺市立さつき野中学校
校長 佐古田 英樹

令和7年度 重点目標
専門職としての資質能力の向上 × “それぞれの”ウェルビーイングの向上
～子どもをみる 子どもから学ぶ 教職員どうしが学ぶ 保護者の学習参画～

確かな学びの現状 R5年度は4つの情報活用能力(問いを持つ力・情報を集める力・整理分析する力・まとめ表現する力)を育成する授業づくりで、全教職員が一人一回公開授業を行い、実践を蓄積した。成果としては、教職員は情報活用能力を意識して授業をすることができたことである。一方、課題としては、生徒が情報活用能力が身についたことを自覚できているのかという意見が、反省から出てきた。そこで、R6年度は、「自覚」をキーワードに、授業研究を進めていった。学校教育アンケートの結果を分析すると、生徒は各教科と情報活用能力とのつながりを見出しにくいことがわかった。R7年度は、各教科における情報の特性をとらえて、生徒が情報活用能力を発揮できるように、授業者が4つの情報活用能力を意識して授業実践をしていく。また、中学校での基礎的学力の育成の取り組みとして、数学を習熟度別に少人数で実施し、単元テスト、振り返りシートを活用して、個別最適化した授業展開を行う。	豊かな心・健やかな体の現状 数年前から行っている食育への取組や、体育行事として小中合同の大運動会、冬の持久走を行っている。大運動会は全学年合同で行い、中学生が中心となり大運動会の準備や運営を行う。体力の向上を目指しながら様々な学年と交流することで、人間関係の広がりやつながりを通して、上級生は下級生を思いやる気持ち、下級生は上級生に憧れを抱くなど、心の育みにもつながっている。また、小中での交流授業を行い、様々な学年と交流しながら学ぶ機会を設けている。異学年との交流をする中で、多様な価値観に触れることができている。小中一貫校の特徴を活かし、生徒の豊かな心、健やかな体が育まれるよう、活動の工夫をしている。
--	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	授業改善	情報活用能力を育成する授業づくりを通して、教科の見方・考え方をはたかせながら、主体的に学ぶ児童生徒の育成	4つの情報活用能力を、教科の見方・考え方を働かせた授業を通して児童生徒に育成する。	教師の肯定的回答80パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末	A 学校教育アンケートで、88パーセントの教職員が肯定的回答をしている。	A 情報活用能力に関する項目の学校教育アンケートで、88%の肯定的回答をしていた。次年度は、道徳の大会(市道研)を開催するが、育成した情報活用能力をベースに道徳の授業づくりに努めたい。	A 教職員の「88%の肯定評価」については、個々の先生方が「課題意識を持っている」ことから表された評価だと思えます。さらに高い意識を持ち、その課題を克服されることを願います。また、成果を示す場を学校内外で増やしてほしいと思います。
			4つの情報活用能力がそれぞれ自分に身についたと思うか。	児童生徒の肯定的回答80パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末	A どの学年も肯定的回答が80パーセントを上回っている	A 情報活用能力は、こどもたちにとって意識しにくいものであるが、教科の学習をしていくことで、確実に育まれつつある。どの教科でも、こどもたちが情報活用能力を発揮できるような授業づくりをしていきたい。	A アンケートでの肯定評価が80%以上はそれぞれの能力がこどもたちに理解されていることと思えます。さらに、全ての教科で「情報活用能力」を活かした「調べる力」等が伸びることを願っています。また、情報活用能力を効果的に形にできるソールの充実に期待します。
	基礎的学力	数学を習熟度別少人数授業で実施し、理解度を高める	習熟度別に少人数で実施することで、学力に合わせた個別最適化した授業展開を実施する。単元毎に単元テストを行い、自身の理解度を確認し、振り返りシートでどのように改善していくかを自己分析を行う	生徒の肯定的回答80パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末	A 学校教育アンケートの3学年の肯定的回答平均が92%を超えている。	A 学校教育アンケートで、3学年の平均が90%をこえていることから、生徒たちは自分たちの理解度や学びを自覚することができている。単元ごとに丁寧に行うことで、生徒たちの学力向上にもつながっているととらえられるので、次年度以降も継続していきたい。	A 習熟度別少人数授業の効果はすごいと思います。授業の工夫等による少人数でない教科へ波及されることを願っています。
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	小中連携し、9年間を通して人権意識を高め、豊かな感性、思いやりの心を育てる	物事を最後までやりきる成就感、達成感が得られるようにし、自己有用感を高める。	自己有用感にかかわる項目で、肯定評価 平均90%以上	学校教育アンケート	年度末	A アンケートにおいて、「自分にはよいところがあると思う」項目での肯定的回答平均が約84%であるが、係や委員会・児童生徒会活動は頑張ったと感じている生徒は90%を上回っている。	B 「自分にはよいところがあると思う」という項目においては、心の発達段階において数値が異なった。学年が上がるにつれて、肯定回答となっている。次年度は全学年で肯定評価平均90%以上を目標とする。係・委員会活動においては、8学年・9学年では平均90%以上の肯定的回答となっているため、全学年での達成を目標とする。	A 成就感、達成感ほ、こどもたち個々により違っています。また、「よいところがあると思う」の項目では、さらなる意識付けをお願いします。
			1～9年生のたてわり「さつき野トーク」「大阪万博校外学習」をはじめとする異学年交流や学級会活動を充実させ、それらを通して自他の良さを認め合うことができるようにする。	小中異学年交流に係る項目で平均80%以上	学校教育アンケート	年度末	A 平均85%と異学年交流を肯定的にとらえている生徒が多かった。8・9年生がたてわり活動のリーダーとなったため、7年生にとっては少し物足りないものになってしまったのかも知れない。	A アンケートより、8・9年生は異学年交流が意味のあるものであると感じている。一方で7年生の出番が少なかったため、意味があるとの実感は少な感じたようだ。学園の全学年が意味があると感じられるよう、来年度は試行錯誤をしていく。	A 小中の異学年交流は、さつき野ならではの取り組みです。これからも、いろいろな交流の形を探り、こどもの成長につなげていただくことを期待します。
			毎学期、学校生活アンケートと教育相談を実施し、留意すべき生徒には迅速に対応する。	「先生は悩みや相談をていねいに聞いてくれる」肯定評価80%以上	学校教育アンケート	年度末	A アンケートではじめてわかる事象も多くあり、児童生徒とのコミュニケーションツールとして一翼を担っている。肯定的回答平均は9割を上回っている。	A 悩みや相談に耳を傾けることはもちろん、その後の課題解決への向き方やアドバイスが肯定評価につながるものであると考える。引き続き職員一丸となった臨機応変な対応を継続したい。	A こどもたちが、「先生に相談したことがない」場合もあるかもしれませんが、こども同士の正しいコミュニケーションの教育に期待したいです。嫌な思いをしたこどもが、担任以外の先生に相談できる体制、またその情報を共有できる体制を充実させてください。
	体力向上	運動に親しむ環境を整え、体力を向上させる	体育の授業をはじめとした体育的な教育活動を通して、運動への前向きな姿勢と意欲を高める。	「運動」にかかわる項目で、肯定評価90%以上	学校教育アンケート	年度末	A 給食が始まり、屋にグラウンドに出る時間が少なくなった。体育の授業では大ま前向きな姿勢が見られる。3学年とも8割が楽しい(9年は9割以上)と返答。	A 体育の授業への肯定的回答から、運動に親しむ基盤はできていると捉えている。全学年ともに90%の肯定評価をめざす。	A 「休休みにグラウンドで遊ぶ」ことは大事なことだと思います。給食の時間配分で解決できるなら、工夫をお願いします。
			給食を通して食育を充実させ、生徒が自らの健康について考える力を育成する。食への興味関心が高まる取り組みを実施する。	「食」にかかわる項目で肯定評価90%以上	学校教育アンケート	年度末	B 準備や片付けに時間がかかり、食べる時間が短くなることで、食そのものへの関心を持つ機会が得られないことが多い。	B 徐々に慣れてはきているが、給食の時間配分に課題が見られる。食育は小学生とともに、学園全体で取り組む必要がある。今後は中一・小一・中一で交流しながら、「食」への関心を高める取り組みに力を入れていきたい。	B 「給食の時間配分～」とありますが、解決策を模索し、次年度以降はぜひとも解決を願います。また、「食育」についてはさらに「食への興味・関心を高めていただくことを期待します。
地域協働	信頼される学校	学校行事や日々の学級の様子について、情報を発信する。	●学園便り、学年便り、学級通信、学校ホームページを活用し、子どもの様子や学校情報を積極的に発信する。	「学園便り、学年便り、学級通信、学校ホームページは学園の様子がよくわかる」肯定評価90%以上	学校教育アンケート	年度末	A 学校アンケート結果では、89%、見やすさや行事・下校時刻などの訂正をなくし、正しい情報を見やすくレイアウトする必要がある。ホームページは現状ぐらいの頻度での更新をめざしている。	A 保護者アンケート「学校ホームページ」では、90%の肯定回答。「学園だより、学年通信・・・」の質問では89%の回答を得た。引き続き地域や保護者の方への情報発信を積極的に行う。校内の様子を広く知っていただくことを通じて信頼される学校をめざしていきたい。	A ホームページには、教職員個々が積極的に載せてください。学園の様子を、保護者、地域へ知らせるための大切な手段ですから、写真等を見やすくするなど、さらに見てもらえる工夫を期待しています。

校長より(年度末) 【確かな学び】今年度においては少人数習熟度別授業の成果が大きく表れ、確かな学びがより一層向上した。また、情報活用能力については、アンケート結果において引き続き高い肯定的評価を得ている。今後も、より一層質的向上を進められるよう取り組んでいく。 【豊かな心・すこやかな体】今年度は異学年交流を活性化させたことをはじめ、豊かな心を育む取り組みを充実させた。このことをとおして、自尊心がより一層高まるよう、今後も取り組んでいく。 【地域協働】学園の取り組みを積極的かつわかりやすく発信することにより、地域協働の取り組みをより一層充実させていきたい。	学校関係者評価者から(年度末) 児童生徒の健康・安全などにも細かく配慮された教育活動が実践されていることを感じます。また、関西万博等を活用したたてわり活動など、小中一貫校の特徴を生かした取り組みも多くされていました。今後もこれまでの取り組みをさらに充実させ、こどもたちのさらなる成長につなげてほしいと思います。
--	---